

演題名： 宮崎県における公立病院の労働生産性と経営分析

宮崎産業経営大学 経営学部教授 ○川島 秀樹
千葉商科大学 経済研究所 白木 秀典
宮崎産業経営大学 経営学部 杉田 桜夜

【はじめに】近年公立病院では全国的に COVID-19 による補助金の影響が大きかったといわれている。また、宮崎県でも人口減少で地域毎に求められる機能に変化していると思われる、

【目的】本稿では宮崎県の公立病院 6 院について労働生産性、人件費率、病院の病床機能、医業収益（利益率）を分析し、診療内容と病院決算状況の変化から、今後求められる機能を考察した。

【方法】総務省病院事業決算状況・病院経営分析比較表、DPC データから病院の経営指標を 2012 年から 2021 年まで調査した。県や市の資料（経営分析比較表）、アンケート調査等も勘案した。宮崎県の地域医療を支える 6 院を選定し、病床数、救急医療、診療機能の特色から 3 グループに分類した。グループ A は県立宮崎病院と県立延岡病院、グループ B は県立日南病院と小林市立病院、グループ C は日南市立中部病院と串間市民病院である。

【結果】宮崎県の公立病院は全体的に 2020 年度のコロナで大きな影響を受けている。人件費率は全体に増加傾向である。

患者 1 人 1 日当たりの診療収入（入院）については、公立病院の平均を上回ったのは、グループ A と B であった。また、公立病院の補助金を入れた損益差額率は、グループ A の病院では、コロナで大きな役割を果たしたので、補助金が配分され、それにより 2020 年は改善していた。

【考察】100 床当たりの医師・看護師数をみると、グループ B、C の病院では医師不足、看護師不足が明らかである。グループ B の病院は、民間病院との連携（手術、リハビリ、後方支援）を充実させて、医師不足・看護師不足に対応する必要がある。

【結論】グループ A の県立 2 病院は経営的に安定している。小林市立病院のようにグループ B の病院は地域支援病院であるが、診療科を絞って回復期の機能を拡充することが、診療機能の変化の一つの選択肢になっている。C グループの病院は周りに民間医療機関が少なく、外来単価が低いことからわかるように、かかりつけ医機能が求められている。

※付記：本研究は、JSPS 科研費 23K09614 の助成を受けたものです。